

②国道9号若宮橋の防災や土地利用に適合したプレビュー工法での架け替え事業

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局 京都国道事務所 京都府

キーワード 防災、水害、地震、交通安全、沿道土地利用、景観、鋼とコンクリート複合構造

全建賞審査委員会の評価ポイント

国道の橋梁架け替えと河川改修の一体的整備。水害と地震の防災を同時に実現するために効果的、かつ、環境にも配慮した構造での橋梁により整備された点が評価された。

1. はじめに

国道9号若宮橋は、京都府亀岡市に位置し、桂川の支流である犬飼川を渡河する橋梁である。犬飼川河川改修事業で川幅を拡幅する事業が進められ、若宮橋周辺だけが川幅が狭い状況のなかで、平成25年・26年と続けて護岸が被災した。

一方で、架け替え前の旧若宮橋は、昭和30年に架設され、現在の耐震基準を満たしていないばかりでなく、歩道が未整備のため、歩行者や自転車の交通安全の確保が課題となっている。

さらに、川幅が狭い中に橋脚が2基設置され、河積を著しく阻害している状況である。

これらの課題を解決するために、国道9号の道路管理者である国土交通省近畿地方整備局と一級河川犬飼川の河川管理者である京都府とで協議を進め、国道9号若宮橋架け替えと河川改修を一体的に進め、平成28年度に事業化した。

2. 事業の概要

河川氾濫や洪水防止を目的とした河川改修事業、大規模地震災害時に救命救急活動・物資輸送を行う重要路線の耐震性・信頼性の向上や自転車歩行者道整備で交通安全の確保を目的とした橋梁架替事業を一体的に行う事業である。令和4年12月に国道供用、令和6年3月に護岸が完成した。



3. 事業の成果

橋梁の架け替えに当たっては、桁下空間を広く取り十分な河川断面確保と河積阻害率の低減が必要である。一方で、隣接の土地区画整理事業が進められて商業地化する中で沿道土地利用との適合が求められ、路面高さを上げることが著しく困難な状況である。

また、昭和30年架設の旧若宮橋は耐震性の確保が必要である。

双方の課題解決のため、「プレビュー工法」を採用したものである。この工法は鋼の桁にプレフレクションをかけ、桁下部にコンクリート打設する構造であり、剛性が高く「桁高を低くできる」特徴がある。

この構造の採用と「免震支承」により、以下の点が可能となる。

- ①十分な河川断面の確保
- ②耐震性の向上
- ③沿道土地利用と高さを整合しバリアフリー化
- ④上部工一体化で耐久性が向上し、桁下空間が広く点検が容易
- ⑤周囲との景観形成の実現

さらに、コンクリート合成床版を工場製作プレハブ型枠で施工し「高い品質と生産性向上」を実現した。



架け替えが完成した国道9号若宮橋

4. おわりに

上部工架設など各施工段階において、河川管理者である京都府に現地確認を行っていただくとともに、京都府をはじめとした地元関係者にも見学いただいた。地元小学生を対象とした見学会も複数回開催し、親しみやすい橋梁となっている。

賛助会員 玉井建設(株)、(株)吉川組、セントラルコンサルタント(株)、中央コンサルタンツ(株)

③都市再生整備計画事業・道路改良事業と連携した津久見川河川激甚災害対策特別緊急事業について～災害からの復興に向けた新たなまちづくりへの挑戦～

受賞機関 大分県 臼杵土木事務所 建設課
津久見市 まちづくり課
津久見市 土木管理課

キーワード 河川激甚災害対策特別緊急事業、まちづくりの連携、地域の活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成29年台風18号による豪雨災害の再度災害防止策としての引提による河川改修と都市再生、道路改良が連携した取組。官と学のプロジェクトチームを結成し、地域住民へのヒアリングやワークショップを行いながら津久見川の河川改修と広場整備や景観形成などのまちづくり、安全性向上のための道路整備を連携して行った点が評価された。

1. はじめに

大分県津久見市では、平成29年9月の台風18号の豪雨により、全域で浸水や冠水等の甚大な被害が発生した。なかでも市中心部では内水被害の発生に加え、津久見川の氾濫により、床上575戸、床下412戸の大規模な浸水被害を受けた。再度このような浸水被害が発生することを防ぐため、河川激甚災害対策特別緊急事業の採択を受け、引堤や特殊堤の設置など河川改修事業に取り組み、令和5年9月に竣工したものである。

2. 事業の概要

事業推進に当たっては、大分県臼杵土木事務所、津久見市役所及び福岡大学景観まちづくり研究室でプロジェクトチームを結成し、河川改修と津久見川周辺エリアを含めたまちづくりについて検討を行っており、計画案の策定過程では地域住民へのヒアリングやワークショップを開催して様々な地元意見を取り入れたうえで事業推進を図ったものである。

河川改修工事では護岸に大分県産の自然石を使用して風格のある古き良き河川空間を創出し、特殊堤や高欄にはLED照明を設置することで夜間の防犯性向上と散策したくなるような魅力的な雰囲気を出している。また、景観面では、引堤に伴う橋梁架け替えに併せて市道を拡



特殊堤や高欄にLED照明を設置

幅し、通行車両の安全性を確保するとともに、橋梁の桁高を可能な限り薄くし、高欄の支柱を細くすることで見通しの良い景観に配慮した道路整備も行った。さらに空間づくりとして、津波発生時の一時避難所となる展望広場や憩いの場となるポケットパークを河川沿いに整備し、人々が安心して集い、賑わいを創出する空間を生み出している。

3. 事業の成果

令和5年9月3日に竣工を記念して式典とイベントを開催した。式典には多くの関係者が出席し、竣工記念動画の上映、地元区長や建設業協会へ感謝状の贈呈を行い、最後にくす玉を割って竣工を祝った。また、その後に開催した河川空間を活用した様々なイベントでは、たくさんの地域住民で賑わう等、津久見川は、人々が集う憩いの場となる魅力ある空間へ生まれ変わった。



竣工記念式典（令和5年9月3日）の様子

4. おわりに

引堤により25世帯の家屋移転が必要になったが、プロジェクトチームの取組等により地元の理解が深まり、用地交渉の着手から1年半という短期間で大半の移転が完了し、25世帯のうち18世帯は津久見市内に留まる結果となった。難易度の高い工事であったが施工業者の協力もあり被災から7年で復旧することができた。この場を借りて、関係者に改めて感謝申し上げる。

最後に、河川改修で新たに創出された河川空間が活用され、より一層の地域活性化を期待する。

賛助会員 (株)エイト日本技術開発、(株)建設技術研究所、日本工営(株)、協和産業(株)